上野製薬株式会社

創業90年 世界的視野で取り組む
社会貢献と文化振興活動

ゲストハウス「太陽の家」（兵庫県西宮市）

パソコンや携帯電話などのプラスチック製電子部品の原料である液晶ポリマーや、食品・化粧品の微生物抑制剤（防カビ剤）などの製法を独自開発し、UENOブランドで年商330億円（2007年度）を上げて世界のトップシェアをもつ上野製薬。創業は1918年。創業者上野政次郎氏が醤油のカビ止めの研究をはじめて以来、大阪大学工学部出身の2代目社長・上野隆三氏（現名誉会長・工学博士）による数々の発明・発見が、今日に至る化学薬品事業の発展を支えてきた。「おじいさんの時代は、食品の腐敗が原因で生命をなくす人が多かった。そんな悲劇を繰り返さないために、少しでも世の中の役に立ちたいと思って取り組んだのが食品保存技術。以来、当社の事業の歩みそのものが、社会貢献活動だと思っています」というのは、3代目・上野昌也社長。同社は、事業で得た経営資源の一部を活用し、社業以外にもさまざまな社会貢献活動を行っている。そのひとつが、「タイ国ロイヤルプロジェクト」への参画だ。

代表取締役社長 上野昌也氏

タイ、ミャンマー、ラオスにまたがる山岳地帯は黄金の三角地帯と呼ばれ、ケシの栽培が盛んなところ。これに対し、国際的な麻薬撲滅運動の一環として、ケシに代わる換金植物を導入すべくタイ国王室の主宰ではじまったのがこのプロジェクト。上野製薬は1996年からこれに協賛し、北海道産の高級小豆「エリモショウズ」を、タイの環境に適した高品質小豆として交配させる栽培実験に取り組んでいる。こうした協力が認められ、2001年、上野名誉会長はタイ国王よりディレクナポン勲章を受章した。

タイにおける小豆のテスト栽培（2008年1月29日 撮影）

また同社は、世界的に事業展開している企業として、CSR（企業の社会的責任）の観点から、国際的援助団体セーブ・ザ・チルドレンの活動に共鳴。貧困や紛争で苦しむ子どもたちを支援するため、小学校建設や子どもの栄養促進事業、教員の要請や経済的援助などを行っている。上野昌也社長はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（本部・東京都）の理事長として、エイズがまん延するアフリカ南部のスワジランドにも足を運んだ。

一方、国内における企業メセナ活動として、同社はクラシック音楽を通じた国際文化交流事業にも力を注ぐ。弦楽器の世界的名器であるストラディバリのレカミエ（バイオリン）やシャモニー（チェロ）などを、世界的に活躍する若手演奏家に貸与したり、2000年に建設したゲストハウスで、海外の一流音楽家を招きコンサートを開催。音楽家に活動の場を提供するとともに、クラシック音楽の普及に努めている。「父の2歳違いの兄はバイオリンを弾くのが大好きでした。しかし学徒動員で硫黄島に出征し20歳で戦死。ベートーヴェンのスプリングソナタの楽譜を片時も離さなかったといいます。その無念さを想って、父がゲストハウスを建てました」と上野社長。同社における、社会貢献活動やメセナ活動への思いは深い。

ストラディバリ「レカミエ」

上野製薬株式会社
本社：大阪市中央区高麗橋2丁目4番8号
http://www.ueno-fc.co.jp